



特別講演 I

大会第1日目 14:40~16:40



お家に行こう！

—訪問診療事始め—

日本歯科大学
口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長 菊谷 武

患者は家で暮らしています。住み慣れた家で、家族の思い出とともに暮らしています。お家でのちょっとした処置で患者は苦痛から開放され、食べる楽しみを取り戻します。これまで長く外来診療に通ってくださった患者に良かったらお家に行きますよと声をかけてください。人生の先輩たちのその最終段階に立ち会えることは、歯科医師冥利に尽きるものです。残念ながら時間の長短は別にして、やがて全ての人は身体機能の低下に伴い通院不可能になります。いつ何時何が起ころうとも、歯科医療は裏切らない！そんな医療でありたいと思います。

本講演では、訪問診療に備えて外来診療でなすべきこと、訪問診療のはじめの一步、そして、看取りにかかわるまで、訪問診療の基本と魅力をお話しします。

プロフィール

【ご略歴】

1988年 日本歯科大学歯学部卒業
2001年10月より 附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター センター長
2005年 4月 日本歯科大学助教授
2010年 4月 日本歯科大学教授
2012年 1月 東京医科大学兼任教授
2012年10月 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

東京医科大学兼任教授、広島大学客員教授
岡山大学、北海道大学、日本大学松戸歯学部、日本女子大学 非常勤講師



【北海道障害者歯科医療協力医の更新研修会】

障害児・者の行動調整（改訂版）

北海道大学大学院歯学研究院
口腔機能学分野 小児・障害者歯科学教室 教授 八若 保孝



障害児・者の行動調整は、難しいと考えられている。正解が存在するわけではなく、対応は障害児・者一人ひとりで異なる。我々は、行動調整の引き出しをできるだけ多く持ち、いろいろな視点から障害児・者にアプローチする必要がある。その中で基本になるのは、障害児・者の疾患および発達状態を把握することである。これを基盤に、適切な行動調整を選択し、対応していく。一つの方法というよりは複数の方法を駆使することで、そして個々の障害児・者に合わせた修飾・変更を行うことで、行動調整の可能性は広がることが多い。障害児・者と我々との相性についても重要な要素となり、最終的には、人と人との関わりに帰結するといえる。行動調整は万能ではなく、限界が存在することを忘れてはならない。

今回は、行動調整の考え方、方法について、障害者歯科学の立場から整理し、発達年齢とレディネス、各種行動調整法、各障害における行動調整の留意点、環境の影響について解説する。



DT

テーブルクリニック

大会第2日目（A会場）14：00～15：00

デジタル化が進む歯科技工士業界の現在



公益社団法人北海道歯科技工士会 副会長 政氏 勲

歯科用CAD/CAMシステムを使用した「非金属歯冠修復他」の項目にCAD/CAM冠が(保険)掲載されてから本年度で10年が経過しました。

この事象は歯科技工士業界のデジタル化が進む大きな契機となり、歯科医院と歯科技工所、歯科技工所と歯科技工所の連携やコミュニケーションの効率化がなされてきました。

そして、この10年の間にCAD/CAM冠の適用症例・適用材料は広がり、本年6月からは更に領域が拡大し、「デジタル化」は「人口減少」「少子高齢化」が進む日本において他の業界と同様に歯科業界でも必然の潮流と言えるかと思えます。

一方で先達から引き継がれてきた確かな目と技術を持って行う、デジタルを用いた加工物、造形物に対する確認作業や仕上げ作業は今後も必要となってくるので従来技術を疎かには出来ません。

上記を考慮しますと、「デジタル技術」「従来技術」の両方を持ち合わせているハイブリッドな人材が今後歯科技工士には求められますが、全国、北海道内歯科技工士教育機関の入学希望者の減少は著しく、教育機関任せではない対策が求められています。

本発表では、CAD/CAMシステムと従来技術を比較した得手不得手、開発が進むCAD/CAMマテリアルの整理、歯科技工士が減少する中、人材確保や多様な働き方の仕組みづくりなどの創意工夫を行なっている事例についてお話させていただきます。

■プロフィール

【ご略歴】

2003年 札幌歯科学院専門学校 歯科技工士科 卒業
2012年 医療法人ファミリー会 永山ファミリー歯科クリニック 退職
2012年 株式会社松風入社 札幌営業所配属
2017年 公益社団法人北海道歯科技工士会 理事
2019年 公益社団法人北海道歯科技工士会 常務理事
2023年 公益社団法人北海道歯科技工士会 副会長(学術・組織担当)

